

令和4年3月1日

静岡大成高等学校第18回卒業証書授与式 学校長式辞

先月までの寒波が嘘のように、春の訪れを感じさせる季節になりました。本日、静岡大成高等学校、第18回卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。陰になり陽向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いがよみがえってきていることとお察しいたします。また、この3年間、本校の教育方針にご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

134名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。進学をして学問を究める人、専門知識を身につける人、就職して社会人として活躍する人、進む道は違いますが、必ず目標を持ってスタートラインに立ってください。

皆さんの高校生活は、コロナウイルスにより多くの打撃や制約を受けることになってしまいました。特に2年生の時にはさまざまな行事がなくなりましたが、何といても残念だったのは修学旅行に行けなかったことでした。学校としてもいろいろと手立てを尽くしましたが実施できず、本当に心残りでした。そういう中で、皆さんは悔しさを我慢し、不満を表に出すこともなく、学校の中心学年として、学校を支えてくれました。私は皆さんに改めて感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。修学旅行の思い出は残すことができませんでしたが、コロナ禍を乗り切った経験が、皆さんのプラスの財産として残ってくれることを願っています。

卒業する皆さんに私から伝えたいこと、それは「哲学を持て」ということです。難しい学問をしるということではありません。哲学とは、自分なりの考え方や信念を持つことです。それが、自分が生きていく拠り所となります。迷った時、困った時、辛い時、自分がそれを乗り越えるための力となるものが哲学です。

平成26年度の卒業生、水谷拓磨君についてお話しをしたいと思います。水谷君は静岡大成高等学校での3年間、清水エスパルスユースに所属し、U17の日本代表として、背番号10をつけてワールドカップにも出場しました。学校が終わると毎日三保のグラウンドに練習に出かけて行きました。練習はもちろん、海外遠征も多くて大変だったと思いますが、学校生活も手を抜かずしっかりとやっていました。ある日私は、彼が男子職員トイレの掃除で、素手で雑巾を持って便器を一生懸命こすっているのを見て、日本を代表する選手が黙々とトイレ掃除をしている姿に感心しました。決しておごらず、友達も多く、クラスでも信頼されていました。水谷君は、プロになるという高い目標があったから、今は高校生としてやるべきことをやらなければいけないと考えた、これが彼の哲学だと私は思います。

卒業後は、清水エスパルスに入団し、プロのサッカー選手として第一歩を踏み出しました。その後 J2 の FC 今治を経て、現在 J3 の AC 長野パルセイロのトップチームのキャプテンとして活躍しています。昨年 12 月に水谷選手が学校に来てくれて、「来年度はチームの J2 昇格が目標だが、自分を必要とする上部チームから声がかかれば上を目指したい」とより高い目標を語ってくれました。プロの世界で生き抜いていくことは、並大抵なことではありませんが、それを支えているのが彼の哲学ではないかと私は思います。

最後に、夢に向かって旅立つ皆さんに、私からエールを送りたいと思います。昨年 11 月の講演会で、講師の立木早絵さんが歌った歌「夢に向かって」の歌詞の一節を送ります。

『どんな時でも 自分の決めた道には とことん食欲でいたい
夢は見るものじゃなくて 追いかけるもの
そして 叶えるもの 諦めない
自分色の輝きを手に この手にするまで』

卒業生の皆さんの今後のご活躍を期待しています。